

東京農業大学稲花小学校

学校だより【2023年4月24日】第162号



畑 はじまる

4月20日(木)には2年生がナスの植え付けに、21日(金)には1年生がトマトの植え付けに、農大稲花小の畑へと出かけました。教職員に引率された子どもたちは、張り切って正門を出て、畑に向かいます。畑では、農業者でもあり、農大稲花小の子どもたちにとっての「畑の先生」である湯浅さんに指導を受けます。

やわらかく耕された土です。土の香りを楽しめる子どもが育つことでしょう。トマトの苗も、ナスの苗も、しっかり植え付けることができました。

グラウンドは大賑わい

中休み、昼休み、グラウンドは大賑わいです。鉄棒をする子どもたち、縄跳びをする子どもたち、ドッジボール、かけっこ、鬼ごっこなど、遊び方は様々です。人工芝は気持ちがいらいらしく、日向ぼっこのように寝転がっている子どももいます。グラウンドの隅の隅の植え込みで、昆虫を探す子どもたちもいます。植え込みにカマキリの卵塊を見つけて教えてくれる子どももいますし、ダンゴムシはいつでも子どもたちの人気者です。遊ぶばかりではありません。先生を見つけてうれしそうにくっついてる子どももいます。先生のそばにいただけでも、嬉しい様子です。短い休み時間を、思い思いに子どもたちです。

4年生がお手伝い

1年生の給食の配膳、今週からは4年生が手伝ってくれています。4年生の力は素晴らしく、てきぱきと配膳してくれるのです。今まで配膳を補助していた教員たちは皆、大助かり。1年生も、うれしそうです。

保護者会

4月22日(土)、農大稲花小では保護者会が行われました。1, 2, 3年生の保護者を対象とした全体会と学級懇談会、また、4, 5年生の保護者を対象とした全体会と学級懇談会が行われました。全体会で校長からは、学校の近況をお伝えするとともに、家庭と学校が共に子どもたちを見守り、育てていくことを願ってのお話いたしました。子どもたちには先生や保護者、社会の大人を、友だちを、そして自分自身を大切にしよう話をしたこと、さらに、規律を守り、思いやりの心をもつように育てることについてもお話いたしました。なにより、心に余裕のもてる生活ができるためには、ご家庭のご協力が必要なことについてもご理解いただけたかと思います。時間に追われてからだが疲れている子どもは、学校でも落ち着かず、勉強に取り組むことや、友だちとのよい関係を築くことが難しいのです。

続けて教頭より、「10 の能力」を教育指標とする本校の学びについて説明がありました。点数で示される、いわゆる狭い意味での成績だけに着目するのではなく、幸せに生きるために必要な非認知能力ともいえる「10 の能力」について、保護者の皆様にもご理解いただけたことでしょうか。子どもたちには、自ら学ぶ姿勢を身につけてほしいと願っています。また、東京農業大学稲花小学校教育後援会の役員代表として塙会長から、教育後援会の目的や活動についてのご紹介をいただきました。それぞれの学級における学級懇談会では、保護者の皆様の自己紹介や、学級の様子のご紹介がありました。

保護者の皆様には、ご多用の中にもかかわらず、ご出席いただきありがとうございました。久しぶりに保護者の皆様とお目にかかれることができました。また、保護者様同士もお話が弾んだことでしょうか。

「食と農」の博物館で

4月21日(金)、東京農業大学「食と農」の博物館では、新たにはじまった企画展である地域創成科学科展「五感で学ぶ！ちいきのひみつ」のオープニングセレモニーが行われ、校長もお招きいただきました。小学校の山梨県小菅村における源流体験とそこから発展した探求学習の成果を展示していただいているためです。本校の5年生(執筆当時は4年生)15名の研究レポートが展示されています。

この企画展示は、子どもが楽しめる工夫がされています。また、目のご不自由な方にも点字などの補助により、楽しんでいただけるようになっています。また、展示やロープなどによる工夫を体験することで、理解を深めることが期待されます。

オープニングセレモニーではテープカットもさせていただきましたが、次は、本校の子どもたちと見学させていただくことにしましょう。なお、この企画展は、8月31日まで開催され、子どもたちにも楽しめるイベントが折々開催されますので、楽しみです。



地域創成科学科「五感で学ぶ！ちいきのひみつ」

東京農業大学稲花小学校

校長 夏秋 啓子